

「工藤篤子メールマガジン」第二号 2001. 12. 30 ●2001年をふいかえって



写真：第一回関西支援者の集い

こんにちは！ 工藤篤子です。

今年ももう2日を残すばかりとなってしまいました。12月の超多忙なコンサートの中、メルマガを書く時間をついに持つことができませんでした。これからも、コンサートが集中する時期にはメルマガをお届けできない状態になってしまうと思いますが、そのときにはどうぞご理解ください。でもできるだけ定期的に私の最新ニュースと祈りの課題などをお届けしてまいりたいと思っています。

<12月のコンサート報告から>

- 6日ー八尾福音教会、8日ー国分寺バプテスト教会、
- 11日ー八尾グレース、
- 13日ー牛久キリスト教会、
- 15日ー立川駅前キリスト教会、
- 16日ー東京カベナント教会、
- 18日ー京都チャリティークリスマスコンサート、
- 19日ー大阪童謡の会コンサート、
- 23日ー三島高台教会、
- 24日ー恵みシャレー・クリスマスコンサート（2回）

以上合わせて11回のクリスマス・コンサートで奉仕させていただきました。

皆さんのお祈りに心から感謝しています。おかげさまで、このハードスケジュールを最後まで、コンディションを崩さずに終えることができました。

今回は今までに増して、主の導きを強く感じました。ほとんど毎回のよう、主が今日来られても恥じないしもべとして、今日のコンサートで主に誠実に仕えたいと祈りつつのぞみました。けれども、それは私がかんばるのではなくて、あくまでも主のみ業でありますように、と祈りました。この思いは私がミニストリーズを設立したときの思いであり、今の私の奉仕の中心です。もしもここから私が離れるようなことがありましたら、皆さん、どうぞ私を訓戒・叱責してくださいね。

ある教会でのアンケートでは、5人の決心者が与えられました。主が力強い御手をもって、その方たちのこれからの歩みを導いてくださるよう祈ります。

また別の教会では、求道者の女性が、「工藤さんが変えられたように、イエス様は私の思いも変えてくださることができるのですね。私も委ねてみます。」と涙ながらにおっしゃっていました。その方はもうすでに、イエス様を救い主として心にお迎えしているかもしれません。

<2001年を振り返って>

2000年11月に「工藤篤子音楽ミニストリーズ」を設立し、一年が経ちました。その間、関西では、早くも6月に支援者の集いを開催することができ、50余人の方が集ってくださいました。その後、10月には関西で8人の世話人が立ってくださいました。関東でも現在6人の世話人がまとまってくださろうとしています。主の素晴らしい導きと備えに、今年はただただ感謝、のひとことに尽きます。

ドイツの母教会FGECが、開拓14年目にして教会堂を持つことができました。けれどもその裏にはたくさんの方たちの祈りがあったことを、私たちは新会堂記念礼拝で知りました。そこに参加されていた近くの国教会の老ご夫婦が、私たちの祈りに加わって、「この教会を祝福してください。」と熱心に祈ってくれました。彼らは、この地区に教会ができますようにと、この辺りを散歩しながら何年も祈っていた、というのです。それを聞いたとき、私たちはそのご夫婦の祈りと主のみ業に感動して胸が熱くなりました。

<今年学んだこと>

今年は信仰によって歩む、ということ学んだ年でした。ある日、ローマ書4：5「何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。」を読んでいたとき、マルティン・ルターのキーワード、「義人は信仰によって生きる。」（ローマ1：17）が生き生きと内側に響いてきたのです。私はイエス・キリストを信じて義とされたけれど、今義人として生きてゆくのは、常に主を信じて生きる日々の行為なのだ。特に自分の思い通りに物事が進まないとき、先が見えない時、悲しい時、疲れた時、病の時こそその大切さを思いました。以来、ローマ書は今年の大切な書になりました。

振り返ってみると、これまでもローマ書が一番語られた書簡だったのです。ローマ書5：8「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」を通して救いに導かれ、開拓伝道時代、自分の無力さに打ちのめされたとき、ローマ書4：17「このことは彼（アブラハム）が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののように、お呼びになるお方の御前で、そうなのです。」によって、再び信仰が奮い立たされたのでした。

11月下旬のハーベスト・タイムの聖地旅行では、そのローマ書を目でみるような体験をさせていただきました。中川先生の霊的なメッセージは、私の神への思いと知識をさらに深めてくださいました。最後の日には、パウロが書簡に、何度も何度もイエス・キリストと書いた時の、彼のイエス・キリストへの思いが伝わってくるような気がして涙が溢れて止まりませんでした。

「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。」

（ピリピ3：8）

では、祝されたお年をお迎えください。 感謝！

工藤篤子